



昭和大学歯学部だより

2021年 11・12月号

通算第213号

教授(員外)に就任いたしました

＜口腔生化学講座 宮本 洋一＞

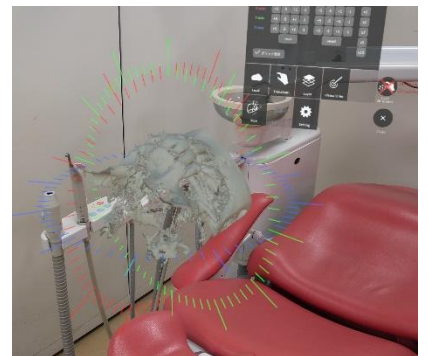


2021年9月14日付で口腔生化学講座の教授(員外)を拝命しました, 宮本洋一でございます。私は, 化学メーカーの研究者として社会人生活をスタートしました。入社1年弱で, 熊本大学医学部微生物学教室に5年強, 続けて昭和大学歯学部口腔生化学教室に3年間派遣されることになりました。1997年に会社を辞め, 派遣先だった熊本大学医学部微生物学教室の助手となり, 2002年には昭和大学歯学部口腔生化学教室に採用していただきました。その後, 私の職歴としては最も長い, 20年弱を口腔生化学講座で過ごしております。その間, たくさんの大学院生の共同研究者として楽しい時間を過ごす経験を持つことが出来ました。また, 生化学・科学の面白さを伝えることができるかを意識して, 学部学生の講義や実習に臨んでまいりました。いまだに試行錯誤の日々ですが, 私自身, 日々成長できるよう頑張っております。これからも昭和大学歯学部の一員として, 学部教育, 大学院教育に邁進する所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう, 何卒よろしく願い申し上げます。

～研究紹介～(歯内治療学部門)

＜歯内治療学部門 鈴木 規元＞

当部門では6名の大学院生を中心に, 基礎的および臨床的研究を行っています。基礎的研究では歯科薬理学講座や口腔微生物学講座にご協力をいただき, 「マウス実験的根尖性歯周炎に対する骨吸収抑制薬の影響」や「唾液抗体による口腔健康状態評価法の開発」などの研究を行っています。また, 臨床的研究では, 根管洗浄に関する研究や歯根破折に関する疫学的研究などに加え, 最近では「医療分野外の新しい技術を積極的に臨床に取り込む」ことを目標に, 3Dモニターや AR(拡張現実)といった新しい技術を用いて, 歯内治療における新しい歯科用実体顕微鏡の活用法や, 診療時の視覚支援システムの開発といったテーマを中心に研究を行っています。興味のある方は是非お声がけください。



診療用ユニットに設置した顎骨のポリゴンデータ

- P.1 【教授(員外)に就任いたしました】口腔生化学講座 宮本 洋一教授
【研究紹介】歯内治療学部門 鈴木 規元教授
- P.2 【入試】入試常任委員 井上 富雄教授
【解剖慰霊祭】口腔解剖学講座 野中 直子教授
【学生講義のリアルタイム配信】教育委員長 飯島 毅彦教授
- P.3 【学生懇談会】教育委員長 飯島 毅彦教授
【ファシリテーター養成ワークショップ】教育推進室 片岡 竜太教授
- P.4 【学生による研究発表】歯学部5年・四宮 寛大君
【実習風景】歯科理工学部門 堀田 康弘准教授

総合型選抜入試・推薦入試・卒業生推薦入試・編入学試験が実施されました

<入試常任委員 井上 富雄>

10月1日(金)に総合型選抜入試の一次試験, 10月23日(土)に総合型選抜入試二次試験, 11月27日(土)に推薦入試・卒業生推薦入試・編入学試験が旗の台キャンパスで行われました。

総合型選抜入試は, 30名の志願者から16名(男子6名, 女子10名)の一次試験合格者が決定し, 二次試験で教養試験・模擬授業およびテスト・面接試験が実施され, 4名(男子1名, 女子3名)の合格者が発表されました。推薦入試の志願者は40名で, 27名(男子11名, 女子16名)が合格しました。卒業生推薦入試は今年から実施され, 10名の志願者が推薦入試と同様の試験を受け, 6名(男子3名, 女子3名)が合格しました。編入学試験は6名の志願者がありましたが, 合格者はありませんでした。

今後の入試日程は, 令和4年2月4日(金)に医学部選抜 I 期試験利用歯学部併願入試の一次試験, 2月5日(土)に選抜 I 期試験・大学入学共通テスト利用入試の面接試験, 2月12日(土)または13日(日)に医学部選抜 I 期試験利用歯学部併願入試の二次試験, 3月6日(日)に選抜 II 期入試が実施されます。教職員の皆様には, ご協力のほど, よろしくお願い申し上げます。



解剖慰霊祭が挙行されました

<口腔解剖学講座 野中 直子>

令和3年度解剖慰霊祭が10月19日(火)午後2時より, 昭和大学上條記念館において挙行されました。本年度慰霊された御霊は, 病理解剖または解剖実習のために供された方々で, この中には歯学部の解剖実習のためにご献体された19柱が含まれております。

昨年からのコロナ感染拡大にともない, ご遺族のご参列は叶わず, 大学関係者のみの開催となり, 歯学部からは榎歯学部長・馬場歯科病院長・美島教授・野中が参列いたしました。開式の辞に続き, 物故者へのご冥福を祈り黙祷が捧げられ, 昭和大学を代表して口腔病態診断科学講座の美島健二教授が祭文を述べ, 続いて医学部・歯学部の学生代表が弔辞を述べました。歯学部からは2年生の鶴岡 藍さんが, 献体者への感謝の気持ちを述べ, 解剖実習の経験をふまえ勉学に励むことを御霊に誓約いたしました。久光 正学長よりご挨拶があり, 参列者は祭壇前で献花を捧げ, 閉式の辞により午後3時に終了いたしました。



学生講義のリアルタイム配信

<教育委員長 飯島 毅彦>

これまでオンデマンド授業が講義の中心であり, 学生の在宅学習をいかに管理するかが課題であった。オンデマンド配信は繰り返し視聴できるという点が学生からは好評であり, 試験結果も成績上位者の伸びに表れていた。一方, 学修度は学生の自主性に依存しており, 成績下位者の成績が下がる傾向がみられている。オンデマンドの利点を生かし, 一方では規則的な学習を促すために授業は決められた時間に受講させる方法が検討され, リアルタイム配信の導入, オンデマンド配信および出席をとる時間の規制を行うこととなった。リアルタイム配信あるいは対面授業をユニットで最低1回は施行し, オンデマンド配信は初回は3時間として, その間に出席をとることとした。一方で, 教材は翌日から再度配信することとした。教員の皆様のご協力をお願いします。

学生懇談会が開催されました

<教育委員長 飯島 毅彦>

令和3年10月18日に対面で学生懇談会が実施されました。学生からは授業に関する事、生活に関する事の質問を受け、学部長、学生部長、教育委員長、教育委員が回答しました。授業に関してはオンデマンド配信の各講座からの資料の質や方法のばらつきを少なくするように要望があった。学生からの要望は教員に伝えることとした。これまでプリントに頼らず、教科書で理解を深める自主的な学習法を指導してきたが、やはり、プリントの配布を引き続き求めるなど以前と変わらないプリント中心の学習態度が推察された。生活面では登校機会を増やしてほしいと要望があったが、以前よりは規制が緩和されたので学生からの要望にもある程度こたえられるものと考えられた。その他、設備の不備なども指摘を受け、順次対応することを回答した。榎学部長からはオンライン授業の経験は自主的に学ぶ姿勢を身につける機会ととらえ、意欲的に学習に取りくむよう指導があり、会を閉じた。

ファシリテーター養成 WS が開催されました

<教育推進室 片岡 竜太>

昭和大学のPBLのファシリテーター養成の歴史を紐解くと、歯学部PBL委員会が2005年11月に歯科病院でファシリテーター養成ワークショップ(WS)を開催したのが始まりでした。その後、学部連携チーム医療PBLの開始に伴い、2006年11月に4学部合同でPBLファシリテーター養成WSが行われ、今回で第18回を数えます。

2021年は8月の開催予定でしたが、緊急事態宣言の発出により、9月30日にオンラインでのビデオ受講、10月1日に対面でのファシリテーター養成WSが旗の台校舎で開催されました。4学部全体で20名、歯学部からは8名が参加しました。

WSの開始当初は、学部連携チーム医療PBL(D1, D3, D4が参加)におけるファシリテーターとしての役割や具体的な指導方法を学ぶ内容でしたが、最近では昭和大学にアクティブラーニングが広く導入されたため、在宅チーム医療と倫理TBL(D1, D2, D4が参加)、高齢者コミュニケーション演習・在宅医療支援演習(D3が参加)、学部連携病棟実習(D5が参加)における指導(ファシリテーション)方法を理解し、実践するための内容へと変化しています。学生の興味・関心や主体性を尊重しながら、深い学びの環境を作るファシリテーターの役割や指導方法を、4学部教員のグループワークを通じて学ぶことができました。このような学生主体のアクティブラーニングが広く定着することを期待しています。

行事予定

【1月】

・1月10日(月):看護専門学校一般選抜 入学試験(1期) ・1月15日(土)・16日(日):大学入学共通テスト

認定医・専門医取得

・日本歯科放射線学会認定 歯科放射線専門医 野澤 道仁(歯科放射線医学部門 助教)
 ・日本障害者歯科学会 専門医 内海 明美(口腔衛生学部門 講師)

Award(受賞)

・第64回日本歯周病学会 最優秀ポスター賞 小出 容子(歯周病学講座 講師)
 ・第38回日本障害者歯科学会 優秀発表賞 内海 明美(口腔衛生学部門 講師)
 ・第38回日本障害者歯科学会 優秀発表賞 佐藤 ゆり絵(障害者歯科学部門 大学院)

スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム 日本大会に参加しました

<歯学部5年 四宮 寛大>

この度、私は令和3年度スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCR P)日本大会にて、「口腔内に存在する組織幹細胞の同定法の開発」について研究発表をさせていただきました。今回の研究では、組織幹細胞の性質をもつ神経堤由来細胞を用い、シングルセルRNAシーケンス解析という最新の解析方法を行いました。これを簡潔にわかりやすく説明することは難しかったです。しかしながら、研究内容や自分の考えをブラッシュアップしていく中で、困難があっても投げ出さずにやり遂げる力を育むことができました。また今回は研究発表を全て英語で行いました。将来グローバルな場で活動するためにも非常に貴重な経験を積むことができたと思っています。



今回の研究発表に対しご指導を賜りました口腔生化学講座の上條竜太郎先生、国際交流センターの橋本みゆき先生をはじめ、多くの先生に心より感謝を申し上げます。

～実習風景～ 歯科材料・技術の基礎実習

<歯科理工学部門 堀田 康弘>

歯科材料・技術の基礎実習は、2年生後期に講義で学んだ歯科材料に直接触れながら、その構造や特徴などを理解する実習を行っています。学生にとっては、歯科臨床で日常的に利用されている材料や器具を手にとって確認する初めての实習で、後の臨床系科目につながる重要な役割を担っています。実施項目は、充填材料や合着材料から始まり、歯科精密鑄造や床用レジンの成型で利用される材料や器械、各工程での寸法変化の測定など多岐にわたります。また、平成14年度に実習室が改修された際には、理工学だけにとどまらず口腔解剖学講座の協力のもと歯型彫刻も行っています。学生はレジンの成型、金属の成型、歯型彫刻の3項目をローテーションしながら学んでいきますが、昨年から密を避けるために実習室への入室制限をして、ソーシャルディスタンスに配慮した実習を行っています。それだけに、実施する内容が希薄とにならないよう、ポートフォリオサイトでの動画配信やレポート課題提出、Googleフォームを利用した事前・事後学習など学習コンテンツ作成にも力を入れています。実習最終日には、扱った材料全般を対象とした、簡易的な実技試験を実施し、4年で受験するOSCEに向けた心構えを養う取り組みを、教員だけでなくOBも一丸となり行っています。



ソーシャルディスタンスに配慮した実習風景

編集後記

<歯周病学講座 滝口 尚>

帰宅時に師走の夜空を見上げるとふたご座流星群を発見、皆様にとって来年は良い年になりますようにとお願いしてみました。ご寄稿くださいました皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

昭和大学 歯学部だより 通算213号 2021年12月発行

発行責任者：歯学部長 榎 宏太郎 編集責任者：広報委員会委員長 野中 直子

11・12月号編集委員：滝口 尚（広報委員会）

〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL：03-3784-8000

ホームページ：https://www.showa-u.ac.jp